

# 消費者教育研究校報告書

愛知県立岡崎東高等学校 岩瀬 明子

## 1 はじめに

岡崎東高校は県内公立の総合学科の中でも唯一「進学型」を掲げる学校であり、普通科進学校の長所と総合学科の魅力を併せ持つ学校である。地域社会に貢献する人材の育成を教育目標とし、生徒は自分の夢の実現に向け日々ひたむきに学習や部活動、学校行事に取り組んでおり、真面目で素直な生徒が多い印象である。

令和元・2年度に家庭基礎の「経済生活を営む」という単元の授業で、成年年齢が引き下がることを扱った際、半数以上の生徒が、成年年齢が引き下げられることをポジティブに捉えているように感じた。例えば、選挙に行けるようになる、自分の判断で契約できるようになるなど、積極的に社会参加できることに期待していることが授業後の感想で見受けられた。しかし、教員の立場、身近な大人の立場となって成年年齢が引き下げられることを考えると、生徒よりもネガティブな印象を持ってしまう。例えば、インターネット通販や契約時のトラブルなど、高度情報化した消費社会に取り囲まれた現代の生徒たちは、消費者トラブルに巻き込まれる可能性が高い。

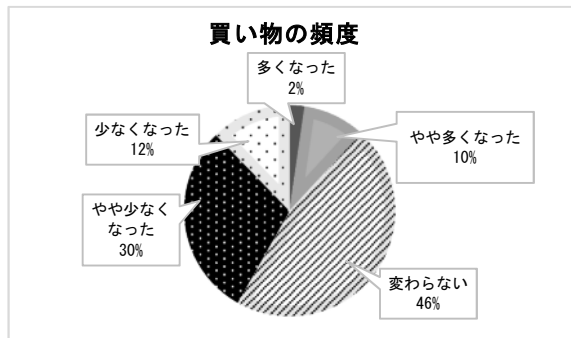
2021年6月25日、消費者庁のHPに「新型コロナウイルスに対する予防効果を標ぼうする健康食品の表示に関する改善要請及び一般消費者等への注意喚起」が掲載された。私はこの事実を知り、情報化が進み、何が正しいか何が正しくないかの判断が消費者個人に委ねられていること、新型コロナウイルスという人類が未だ乗り越えることができていない事象の真偽を掴むことの難しさを感じた。2022年の4月から、18歳で成人を迎えるようになるが、安心して生徒を社会に送り出していくためには、「情報を鵜呑みにせず、物事を多面的に考え、意思決定をする力」を身に付けさせる必要があると感じた。生徒自身が社会で起こる様々な事象について多面的に捉え、「どうして?」「なぜ?」などの疑問を持つことが大切である。

コロナ禍で生徒一人一人が家庭で過ごす時間が増え、「衣生活」「消費生活」がより身近になっている。どんな服を買うか、何を購入するか、など生徒にとって身近な選択から「意思決定」について考えさせ、批判的思考を身に付けさせる授業を構想した。

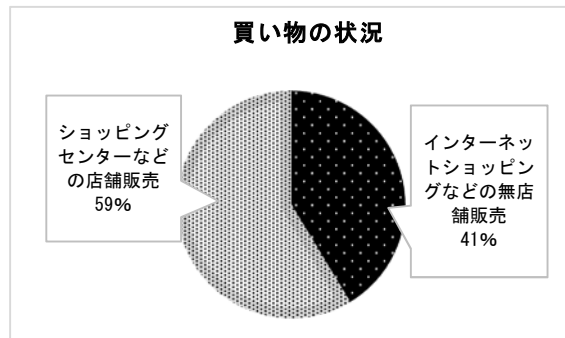
## 2 生徒の実態

以下は授業前にとったアンケートの結果である。

(1) COVID-19 が蔓延したことで買い物の頻度はどうなりましたか。

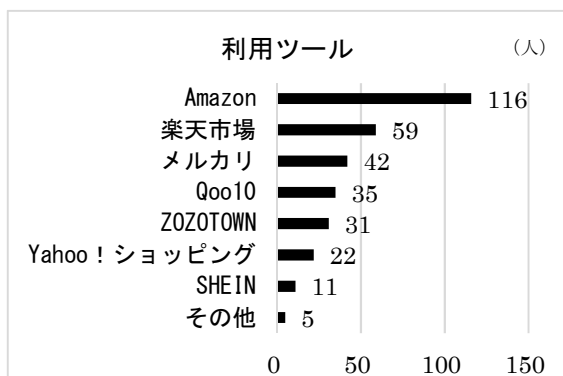


(2) 現在、買い物でどちらをより多く利用しているか教えてください。

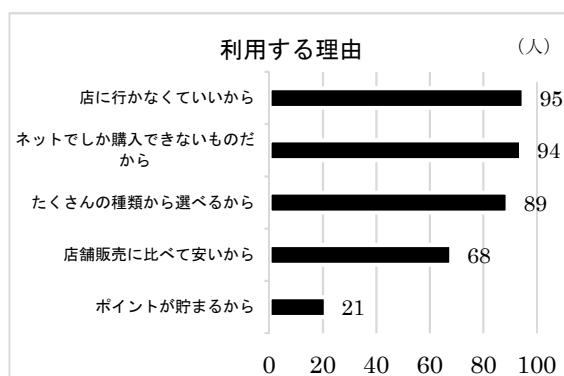


(1) (2)のアンケート結果より、生徒が買い物に行く頻度は約4割減り、インターネットショッピングなどの無店舗販売を利用している割合が約4割であることが分かった。

(3) インターネットショッピングでよく利用するサイトは何ですか。

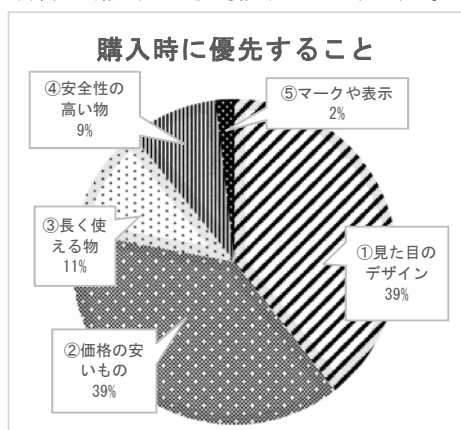


(4) インターネットショッピングを利用する理由は何ですか。



(3) (4) のアンケート結果より、対象生徒 220 人のうちインターネットショッピングでは Amazon の利用者が最も多く 53% と過半数をしめ、次いで楽天市場 (26.8%)、メルカリ (19.1%) であった。

(5) 商品を購入するときに優先することは何ですか。





(5) のアンケート結果より「見た目のデザイン」「価格の安いもの」を選ぶ生徒が多く、2つを合わせると 78% であった。また、(5) のアンケート項目の中には「フェアトレードなど生産者に貢献できるもの」という項目があったが誰も選ばなかった。「見た目のデザイン」や「価格の安いもの」ばかりを優先することは、大量消費・大量生産の社会につながりかねない。流行や価格の安さに惹かれ、使い捨ての社会を続けることは、環境や労働環境に負荷をかけることを授業で扱う必要があると感じた。

### 3 ねらい

- (1) 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性について理解する。
- (2) 批判的意識をもった意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し、工夫する。

### 4 授業計画及び取組

分野	題材	時間	様子
衣生活	人と被服	1 時間	※①批判的思考 I の様子 
	被服の選び方	1 時間	
	被服材料の種類と特徴	1 時間	
	衣生活と資源・環境 (批判的思考 I) ※①	2 時間	
消費生活	家庭生活と社会とのかかわり	1 時間	※②実践的授業の様子 
	消費者問題と契約トラブル (実践的授業) ※②	1 時間	
	クレジット利用のリスク	1 時間	
	消費者の権利と責任 (批判的思考 II)	1 時間	
	持続可能な社会を目指して	1 時間	

## (1) 衣生活と資源・環境（批判的思考 I）

コットン100%の価格差から商品選択を考えさせる授業を行った。大量生産により安く作られたタオル(A)、国産のタオル(B)、オーガニックコットンのタオル(C)、フェアトレード認証のあるタオル(D)の4つの作られ方、値段を比較し、どれを選択するか考えさせた。

		(A)大量生産	(B)国産	(C)オーガニック	(D)フェアトレード
商品情報	価格	94 円	248 円	1,234 円	1,650 円
	素材	綿 100%	綿 100%	綿 100% (オーガニックコットン 100%使用)	綿 100% (オーガニックコットン 100%使用) フェアトレード認証
	原産国	中国	中国	タイ	セネガル
	生産国	中国	日本	日本	日本
	サイズ	34×83 cm	34×85 cm	34×85 cm	38×80 cm

その際「THE TRUE COST」（ファストファッションビジネスの闇を描いたドキュメンタリー映画の映画 CM 約2分）と「2ユーロ T シャツ」（安価な衣料品生産を支えるハードな労働環境の映像 約2分）を視聴させ、購入するという行為が自分と相手だけでなく、社会や地球環境にまで影響を与えていることを知らせ、エシカル消費についても理解させた。


**THE TRUE COST**

- <https://www.youtube.com/watch?v=3KFnWApwu-Y>
- ファストファッションビジネスの闇を描いたドキュメンタリー映画
- 2013年におきたダッカの縫製工場崩壊事故をきっかけに制作された。

**2ユーロTシャツ（2ユーロは約260円）**

- [https://youtube.com/KIAnS2v\\_frk](https://youtube.com/KIAnS2v_frk)
- 2014年4月18日、ファストファッションショップが集まるベルリン市内中心部に
- 「Tシャツ、たった2ユーロ」と書かれた自動販売機が設置された。買ってみようと思った
- お客が2ユーロコインを入れてサイズを選び、スイッチを押すと・・・

「購入する」という 自分の消費行動が社会や地球にまで影響を与えている。



授業の最後に(A)～(D)の4つのうちどれを選択するか、グループで意見交換をさせた。

### 生徒感想（一部抜粋）

(A)もしくは(B)を選択した生徒の感想	(C)または(D)を選択した生徒の感想
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 悪いけど私は私のお小遣いで精一杯だから 100 円のタオルを買います。</li> <li>• 国産のタオルがなんとなく安全そうだから。</li> <li>• 本当はフェアトレードのタオルを買いたいけど 1,500 円は高すぎる。もっと安く作れないのか。</li> <li>• 安い方が良い、ここで（授業中）フェアトレードを選ぶっていても、実際買い物に行くと安い方を選んでしまうと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の購入で児童労働が防げるなら、フェアトレード商品を買いたい。</li> <li>• お金に余裕があるなら、オーガニックコットンを選びたい。</li> <li>• 値段が手ごろだし、フェアトレードタオルを購入したい。</li> <li>• フェアトレードやオーガニックコットンを購入して、社会をよくしていきたい。</li> </ul>

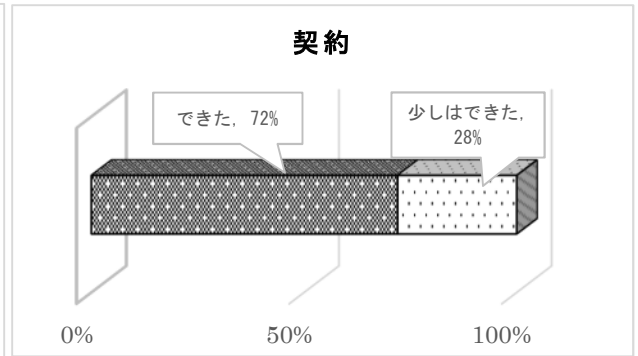
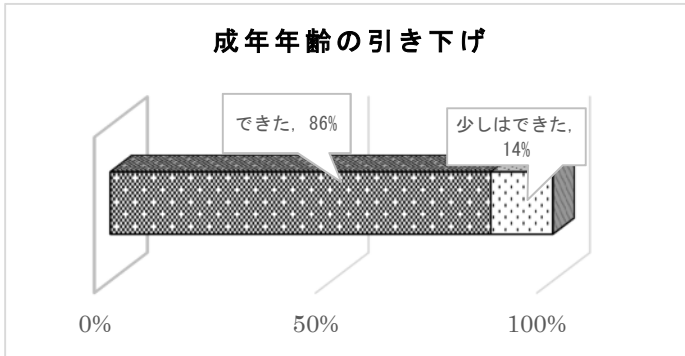
## (2) 消費者問題と契約トラブル（実践的授業）

愛知県県民生活課と、愛知県消費生活総合センターと連携し、契約や成年年齢引き下げ等について消費者庁作成教材「社会への扉」を活用した「実践的授業」を行った。以下は、授業を受けた後の生徒のアンケート結果と感想である。

なお、アンケートの内容は、①～④の項目に対する理解の度合いを「できた」「少しはできた」「あまりできなかった」「できなかった」の4つで回答している。なお、①、②、④の質問について「あまりできなかった」「できなかった」と答えた生徒は0人であった。

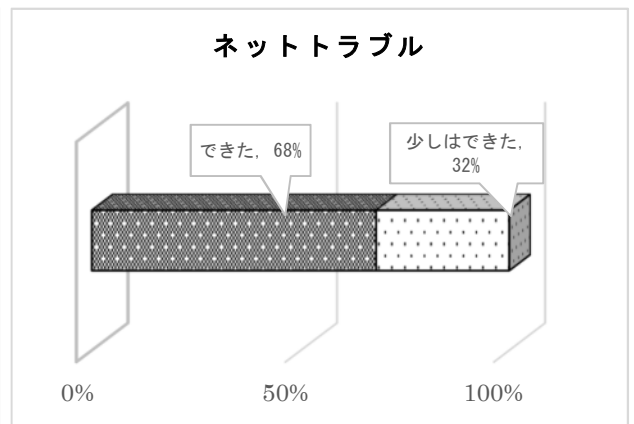
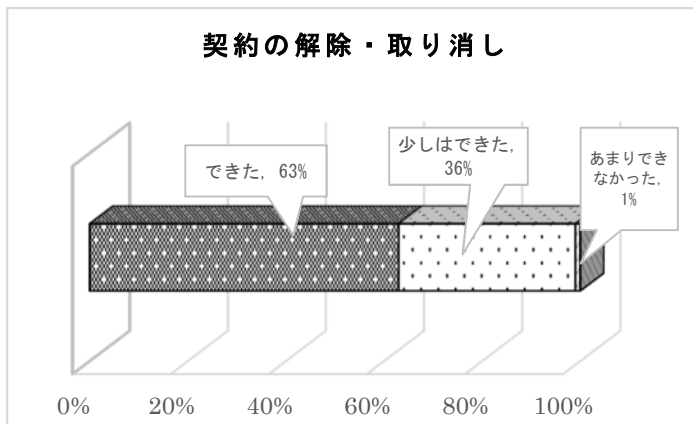
①『成年年齢の引き下げ』について知ることはできましたか。

②『契約』について理解することができましたか。



③『契約の解除・取り消し』について理解することができましたか。

④『ネット』を利用した消費者トラブルについて、理解することができましたか。



### 生徒感想（一部抜粋）

- ・ ネットを利用した購入が多いので、利用規約をしっかりと見て購入したい。
- ・ 契約をする前に規約を読む。怪しいところがないか確認する。
- ・ 利用規約などをよく読んで、簡単にいろいろなものに同意しないようにして安全に消費生活を過ごしたいと思いました。
- ・ 細かいところまで見落とさず、自分に必要なものを見極める。万が一、被害にあったら周りの大人や188(消費者ホットライン)に電話する。
- ・ 今日の授業を通して知らなかったことを沢山知ることができたのでよかったです。
- ・ 2022年に18歳から成人になるので、これから実行していきたい。
- ・ 契約について理解を深め、成年としての消費者の意識をもっていこうと思った。
- ・ 広告やその他の表面上の情報に流されず、その他の契約情報などをしっかり確認すること。そして、仮に間違ってしまったら対処できるようにしていきたいと思いました。

### (3) 消費者の権利と責任（批判的思考Ⅱ）

消費者の権利と責任について理解させ、どのような消費者になりたいかを考えさせた。授業の導入として、だます側・だまされる側の心理を考えるため NHK 制作の「一見、悪徳に見えて、ただ貯金を勧めているだけの男たち」を視聴し、自分や友人がだまされそうと感じた表現を考えさせた。

また、大量消費・大量生産の生活様式が定着しているのは何故かを考えさせ、2012年に開かれた「Rio+20 地球サミット 2012（国連持続可能な開発会議）」における、ホセ・ムヒカのスピーチを一部抜粋し朗読した。

さらに、企業の持続可能な社会への取り組みとして「Apple 社」、「BEAMS」などの取り組みを紹介した。その後、3R (Reduce Reuse Recycle) の取り組みとして生徒自身、企業・社会にできることは何か考えさせ、どのような消費者になりたいかをグループで話し合わせた。

#### 生徒感想（一部抜粋）

- ・環境や誰かのために買い物ができるようにになりたい。
- ・ただかわいい、安いからだけでは、その裏にある「なぜこんなに安いのか」と考えたり、「今、本当に必要か」を考えたりし、意識を変えていきたい。
- ・買うという行為にいろいろな問題がかかわっていて、クリティカルシンキングは大事だなと思った。
- ・1つの物にはたくさんの地球規模の問題がのしかかっている。「それ本当に良い？」と問いかけて事の重大さを理解できるようになりたい。
- ・もったいないと思い、持続可能な社会につながる行動を積極的にできる消費者になりたい。
- ・「選ぶ」ということの重大さを分かっている消費者になりたい。

## 5 分析・考察

ねらい「(1)消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性について理解する」については、消費者教育コーディネーターの方の実践的授業により、9割以上の生徒が「理解できた」「少しはできた」と回答しており、ねらいが達成できたのではないかと考える。

ねらい「(2)批判的意識をもった意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し、工夫する」については、批判的思考Ⅰ・Ⅱの授業で自分の意思で購入した商品の作られ方や売られ方を知ることによって地球環境や労働問題に結びついていることを知り、多くの生徒が自分の消費行動について振り返ることができたため、ねらいが達成できたのではないかと考える。

## 6 研究成果と今後の課題

批判的思考を身に付けさせる授業を構想するにあたり、自分自身がいかにか知識不足かを痛感した。物事を多面的に見るということは、それだけ多面的な知識が必要である。私が今回題材にした「衣生活」における児童労働や環境問題も、「消費生活」における大量消費・大量生産も、社会で起こる様々な問題の一部でしかない。多面的に物事が見られるようになるためには、あらゆることに興味・関心をもつことが必要である。

また、この批判的思考は、一度獲得したからと言って保持できるわけではなく、常に更新していく必要がある。批判的思考をテーマにした授業では、多くの生徒が批判的思考の重要性・必要性を感じたようであったが、現実世界で生徒自身の生活に落とし込むことは難しい。安価な商品や自分にとって都合の良い商品が目先があれば、私も生徒もそれを選び、大量消費・大量生産の波に乗ってしまう。目先の幸せだけではなく、今後10年、20年先の未来を見据えた意思決定ができるような、家庭科の授業を考えていきたい。